

スーパーグローバル大学創成支援事業
「京都大学ジャパングートウェイ構想」事後評価にかかる外部評価を受けて

教育担当理事・副学長 國府 寛司

文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択され、平成 26 年度に開始した本学の「ジャパングートウェイ構想」は、令和 5 年度をもって 10 年間の事業期間を終了した。令和 6 年 7 月にスーパーグローバルコース関係者を中心としたスーパーグローバルコース企画運営幹事会ならびに全学委員会のスーパーグローバルコース実施運営協議会において本構想の総括及び自己点検評価を行うとともに、本構想の事業成果について第三者による客観的な評価を行うことを目的とした外部評価委員会を令和 6 年 8 月 21 日に開催した。

外部評価委員会では、事業期間終了に伴い作成した事後評価調書を中心に、本構想の事業成果及び事業期間終了後の国際戦略等を本学より説明し、各委員から本構想における 10 年間の取り組みに対する評価ならびにご意見をいただくとともに、今後の事業継続に向けた課題や、一方で、本学らしい事業継続の重要性など、今後のグローバル教育の方向性に対して様々な示唆を頂戴した。

本構想においては、多岐にわたる様々な取り組みを実施し、大学院教育を中心に本学の国際化を発展させてきたと考える。途中、コロナ禍に見舞われるなかでも、本学らしい魅力ある事業を進め、本学における教育、研究力の向上に寄与してきた。様々な国際化の取り組みが、国際化の方向性に対する組織としての意思統一に繋がり、一つのプログラムで始まった教育の取り組みが全学に定着するなど、全学の教育、研究力の底上げになってきた。一方で、委員からのご指摘を踏まえ、大学院教育と学部教育における取り組みの実績をそれぞれ整理するとともに、教育の場における具体的な効果を検証しつつ、今後も本構想による実績を活かし、大学院教育における国際化を重視して進めることで本学の国際性を高め、国際ネットワークのハブとして世界から人が集まる京都大学を作っていきたい。

これまで取り組んできた本構想における教育・研究活動について第三者の立場からいただいた外部評価委員各位のご意見は大変貴重なものである。すでに、本学においては教育改革会議などの場において、教育の国際化を含めた教育改革の検討を進めており、これらのご意見については取り組むべき課題として今後の本学の教育改革に活かしていきたい。

最後に、本評価に御尽力いただいた委員各位には改めて深く感謝申し上げるとともに、引き続き本学へのご支援を賜りたく、お願い申し上げます。